

令和元(2019)年度 病害虫発生予報 第3号

令和元(2019)年6月14日
栃木県農業環境指導センター

果樹カメムシ類の発生に注意しましょう！

予想期間6月下旬～7月下旬 予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。

1 水稻 いもち病

- (1) 発生予想 ・発生量：**平年並**
- (2) 根 拠 ・向こう1か月の気温は平年並または低く、降水量は多く、日照時間は多い見込み。(±)
- (3) 対 策 ・葉いもちの初発時期(6月4半旬～6半旬)は、ほ場をよく見回り、早期発見に努める。
・発生が見られた場合には、早急にブラシフロアブル等の予防・治療効果のある薬剤を散布する。
- (4) 備 考 ・[BLASTAM\(いもち病発生時期予測システム\)](#)の情報、薬剤感受性検定結果を当センターホームページに掲載中。

2 水稻 縞葉枯病(ヒメトビウンカ媒介)

- (1) 発生予想 ・発生量：**平年並**
- (2) 根 拠 ・5月中下旬に調査したヒメトビウンカ第一世代幼虫の生息密度は平年並。(±)
・第1世代幼虫のウイルス保毒虫率は平年並(県平均6.5%)。(±)
- (3) 対 策 ・各地域での発生状況に合わせ、育苗箱施薬を行わなかった場合は本田期防除を行う。
- (4) 備 考 ・[植物防疫ニュース\(速報No.1\)](#)を当センターホームページに掲載中。

3 いちご(親株床・育苗) 炭疽病

- (1) 発生予想 ・発生量：**平年並**
- (2) 根 拠 ・現在の発生量は少ない(平年比0%：ほ場率)。(－)
・向こう1か月の気温は平年並または低く、降水量は多く、日照時間は多い見込み。(±)
- (3) 対 策 ・水滴の飛散等で伝染するので、頭上かん水は避け、点滴チューブを用いるなどできるだけ水の跳ね返りのない方法でかん水を行う。
・発病してからの防除は困難なので、予防を主にベルコートフロアブル等を散布する。また、発病株は見つけ次第取り除き、ほ場外で処分し、速やかに治療効果のあるサンリット水和剤等を散布する。

4 いちご(親株床・育苗) うどんこ病

- (1) 発生予想 ・発生量：**やや少ない**
- (2) 根 拠 ・現在の発生量は少ない(平年比4.5%：ほ場率、平年比1.5%：株率)。(－)
・向こう1か月の気温は平年並または低く、降水量は多く、日照時間は多い見込み。(±)
- (3) 対 策 ・生育に応じて葉かきを実施し、株間の風通しを良くする。
・軟弱徒長すると発生が多くなるので、適正な温度管理やかん水を行う。
・予防を主体にベルコートフロアブル等を散布する。

5 いちご(親株床・育苗) ハダニ類

- (1) 発生予想 ・発生量：**平年並**
- (2) 根 拠 ・現在の発生量は平年並(平年比68.3%：ほ場率、平年比53.1%：株率)。(±)
・向こう1か月の気温は平年並または低い見込み。(±～－)
- (3) 対 策 ・雑草はハダニ類の発生源となるため、除草を徹底する。
・気門封鎖剤や天敵製剤を活用することで、作全体の化学農薬の散布回数を減らし、抵抗性の発達を抑制する。
・気門封鎖剤は卵に効果が低いため、5日程度の間隔をおき、複数回散布する。また、殺卵効果のある薬剤と組み合わせてもよい。
- (4) 備 考 ・[薬剤感受性検定結果](#)を当センターホームページに掲載中。

6 野菜類・花き類 アザミウマ類

- (1) 発生予想 ・発生量：**平年並**
- (2) 根 拠 ・6月第1半旬までの青色粘着板への誘殺数は多い。(+)
 - ・きゅうり、なすにおける発生量は平年並、きくではやや少ない。(－～±)
 - ・向こう1か月の気温は平年並または低い見込み。(±～－)
- (3) 対 策 ・雑草はアザミウマ類の増殖源になるので、ほ場内外を除草する。
 - ・施設開口部に防虫ネット等を張ることにより、アザミウマ類の侵入を防ぐ。
 - ・発生初期から、マッチ乳剤<適用作物:トマト、きく [シシトウアザミウマ]>やモベントフロアブル<適用作物:トマト、なす、きゅうり等>等を散布する。
- (4) 備 考 ・アザミウマ類はウイルス病を媒介する。
 - ・モベントフロアブルは、マルハナバチや天敵への影響があるので注意する。
 - ・[薬剤感受性検定結果\(続報\)](#)を当センターHPに掲載中。

7 果樹類 カメムシ類

- (1) 発生予想 ・発生量：**多い**
- (2) 根 拠 ・現在のフェロモントラップへの誘殺数は多い。(+)
 - ・向こう1か月の気温は平年並または低い見込み。(±～－)
- (3) 対 策 ・多目的防災網を展張する。展張に併せて網内に害虫が残らないように防除する。
 - ・袋掛けは早めに行う。
 - ・夜温が下がらない蒸し暑い日の日没時に飛来が多い。こまめに園内を観察し、飛来が認められたら防除する。
- (4) 備 考 ・山林に隣接するほ場や、過去に多発したほ場では特に注意する。
 - ・[植物防疫ニュース\(No. 3\)](#)を当センターホームページに掲載中。

8 その他の病害虫

作物名	病害虫名	現況	発生予想	作物名	病害虫名	現況	発生予想
トマト	黄化葉巻病	やや多	やや多	なし	ナシヒメシクイ	平年並	平年並
なす	アブラムシ類	やや少	やや少	ぶどう	べと病	少	平年並
野菜類	ハスモンヨトウ	やや多	やや多	きく	ハダニ類	やや多	やや多
なし	黒星病	少	平年並				

○うめ・もも・すもも・さくら クビアカツヤカミキリ(特定外来生物)

- ・成虫や、幼虫が出すフラス(木くず)を発見したら農業環境指導センターまで御連絡ください。
- ・[クビアカツヤカミキリ注意喚起チラシ](#)、[植物防疫ニュース\(No. 2\)](#)を当センターホームページに掲載中。

○ほ場周辺の除草は害虫防除の基本です!

- ・水田畦畔の雑草や水田内のイネ科雑草、イヌホタルイ等も斑点米カメムシ類の誘引源となります。
- ・野菜類や花き類でも、ほ場内外の雑草はハダニ類やアザミウマ類、アブラムシ類の発生源となります。

○「栃木県農業管理指導士」養成研修(7月22、23日)、更新研修(7月22日)が開催されます(申込期間は6月28日(金)まで)。詳しくは、県農政部経営技術課環境保全型農業担当までお問合せください。(TEL 028-623-2286)

○6月から8月は「農業危害防止運動期間」です。農業は適正に管理し、容器のラベルをよく読み、正しく使いましょう。

1か月気象予報(予報期間6月15日から7月14日 6月13日気象庁発表)

平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。向こう1か月の平均気温は、平年並または低い確率ともに40%です。週別の気温は、1週目は、平年並または低い確率ともに40%です。2週目は、低い確率50%です。

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

項目	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	40%	40%	20%
降水量	30%	30%	40%
日照時間	30%	30%	40%

詳しくは農業環境指導センター(TEL 028-626-3086)までお問合せください。

病害虫情報発表のお知らせはツイッター「[栃木県農政部\(@tochigi_nousei\)](#)」、農業環境指導センターホームページ(<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/index.html>)でもご覧になれます。